

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200223		
法人名	株式会社中央ライフサービス		
事業所名	グループホームおり鶴		
所在地	三重県四日市市南小松町632番地		
自己評価作成日	平成 28年 3月 12日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JivogyoCd=2490200223-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28年 3月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、ご家族様の想いに紳士に向き合い、謙虚な姿勢で様々なニーズにお応えします。
また、地域に密着した社会資源としての役割を果たすよう努力するサービス理念に基づき、経験が豊富な職員と近隣の訪問看護事業所と提携する事で安心できる生活を支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年4月に開設1年が経過した当事業所は、試行錯誤をしながら地域密着型サービスの役割を目指した活動を続け、その結果いくつかの課題が出てきた。これから一つひとつの課題を職員と共に運営推進会議を活用しながら取り組んで行こうとしている事業所である。職員は利用者のペースに合わせながら穏やかに関わっている様子が伺え、勉強会や研修等で多くの事を学びたいと向上心を持っている。事業所も利用者がいつまでも居心地良く安心して暮らせるためにはどうしたら良いのか工夫と努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープン前の研修や、職員会議を通じて周知を行っているが、最近では理念の再確認ができていません。理念は入口に掲示して外部の方にも周知しています。	理念は3つの内容から構成されている。職員には理念がまだ十分に浸透されておらず、職員間で実践しているかの振り返りを行う話し合いも十分にできていない。	理念を日々のケアに繋げる為にはどのような取り組みをしていくか検討していくことが重要であり、管理者と職員が共有しやすく、意識付けしやすい工夫を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りなどに参加したりしているが、イベントのない時にはまだまだ交流が不足していると感じている。	自治会の会報と一緒に「おり鶴便り」を回覧する事や、地域の花見の参加等検討している。また地域行事の参加だけでなく住民と協力もしながら、事業所に気軽に地域の方が足を運んでもらえるよう取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方との交流がまだまだ不十分で、施設に対するご理解や、認知症の方のかかわり方に関してPRできていない部分がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に出た意見は職員会議などで周知していますが、最近では管理者の交代などで話し合いやフィードバックができていません。	今年度は7月と10月の2回開催している。参加者である市、包括支援センター、住民代表や家族からの協力は得られているが、事業所として開催の準備をする余裕がなかった。	運営推進会議は年に6回以上(2か月に1回以上)開催することが必要である。参加者の協力は得られているので、定期的開催するためには次回の開催日をお知らせする等の工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡は、必要時に訪問したり運営推進会議等での交流を通じて関係構築に努めています。	開設以前から市と関わりを持っており、折りにふれ事業所の実情を伝え、困っていることは実直に対応してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引きをカウンターに常備し、身体拘束をしない環境整備を行っている。また、月に一度の全体会議でカンファレンスを定期的に行う事で職員への周知も図っている。	開設当初、身体拘束に関する研修は行っていたが継続的にできていない。今後職員会議や研修を行い何が拘束なのか、何故だめなのか、ケアの振り返りを職員間で行っていくように検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から虐待などがないように皆が意識してサービス提供に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等について、必要があると思われる方に対しては必要な措置を行うように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際には、十分に説明を行い入所に対する不安を払拭するように努めるとともに、入所後も疑問点などがあれば質問・説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの要望等に関しては、担当職員より報告をもらうとともに申し送りを行うことで周知するようにしている。	運営推進会議の場で家族から、利用者の様子を毎月知らせて欲しいという要望が出されたが、検討中である。また家族が来所した時に、要望についての問いかけは積極的にはしていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開き、職員からの要望を取り入れたり随時話を聞いた都度対応するように心がけている。	定期的に職員の要望を聞く機会はないが、日頃からコミュニケーションを図りながら聞くようにしている。利用者が戸外で過ごす機会として庭にテールやイスの設置の要望があり、事業所はそのアイデアを取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に勤務状況の把握を行うとともに賞与などの評価も含めて反映させるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は、外部への研修を受講するまでの体制は整っていないが、オープン1年を迎え利用者・職員共に環境に慣れてきたので徐々に機会を設けていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員ごとのネットワークの中で、他施設の職員との交流を行っているが、施設と施設との交流は不足している部分は否めない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開所時は段階的に入居日をずらす事で、ご利用者様にも職員にも配慮して関係作りの環境に気を配っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談の際に、ご家族からのヒアリングを通じて要望を吸い上げ、サービスに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定時、管理者と本部社員と第三者を交えて支援の必要性、対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者としてのわきまえる礼儀は持ちつつ、共同生活を行う一員としての接し方に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を家族と同じ目線で接することができるように意識をもちサービス提供に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで大切にしてきた方との関係を継続できるように、意思を尊重して接している。	入居時に馴染みの関係を把握し継続出来るように支援している。入居前から利用していた在宅サービスの関係者や宗教仲間らがお互いに行き来している。面会に来られた方には居室でゆっくり話ができるように職員は配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく共同生活が送れるように生活状況を把握し、環境整備に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在のところ、利用が終了した方が見えないので回答が難しいです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が自分の意志で生活を行えるように職員がコミュニケーションを図るようにしています。	日々のケアの中で声かけしたり、表情を見ながら思いや意向の把握に努めている。また把握の手法の一つである「ひもときノート」を活用し、把握した情報はカンファレンスや申し送りの時に職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に大切にされていた思い出の品を持ち込んでいただいたりすることで安心されるように配慮したりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が、現状把握を行い気になる点は申し送りなどで他の職員との情報共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	以前の計画作成担当者際には、介護職員がそれぞれ介護計画に対して情報を提供する担当者を決め、計画書に反映させる仕組みを作っていたが、計画作成担当者変更になったためその仕組みを今後再構築していくように考えている。	サービス担当者会議は家族も参加し、職員・主治医の意見も取り入れてチームで作成している。モニタリングに基づき、計画の見直しは半年後であるが、利用者の状態の変化によっては臨機応変で行っている。計画書はその人らしい生活を支える計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は一目で分かるよう簡略化し、情報の共有を複雑にしないよう工夫している。開所より間もなく一年を迎えることによりADL等の変化に合わせて介護計画の見直しを図っているところである。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開所より一年が経とうとしているが、ご利用者様、ご家族様の状況に大きな変化はみられていないものの今後、医療的な多様かつ柔軟な対応を円滑に行うため、訪問看護事業所との密接な連携に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体制の構築を優先したため、地域資源を活かした生活の支援には現在のところ至っていない。2年目は地域との協働も意識して支援に取り組む予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な、医師による訪問診療を行うことで適切な医療を受けることができるようにしている。	入居時、家族らが希望する医療機関に受診出来ることを説明し、現在では全員が月2回、事業所のかかりつけ医の訪問診療を利用している。認知症等の専門医受診は職員や家族らが付き添っており、受診結果は電話等で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護による訪問支援を行うとともに、何か気になったことがあれば連絡・相談ができる体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在は、そのような事例はないが提携医療機関や訪問看護との連携を通じて適切な対応ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況が急変した際には、提携医療機関や訪問看護等とご家族を交えて対応について協議を行い、適切な支援体制をとれるようにしている。	開設して1年経過したが、事業所として重度化や終末期に向けての基本的な方針が確立されていない。事業所として重度化や終末期を支えていけるかが課題となっている。	不安を感じるのは利用者・家族であり、両者間で行き違いも出てくる恐れがあるので、出来る事と出来ない事を医療体制も含め、あらゆる方面から見極めて事業所が対応出来る支援方法を具体的に考えて欲しい。同時に利用者や家族の意向を尊重するよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設開所時の研修は行ったが、以後はできていないので、訓練を行うように計画していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行うとともに、有事の際に使用できる備蓄品の確保などに努めていきたい。	去年11月に震度5を想定しての避難訓練を行い、終了後の反省会では、その時の利用者の行動が予想外であったため次回の訓練につなげている。新年度は夜間時、火災等あらゆることを想定しての訓練を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を保ち配慮できるよう対応を行っている。	日々のケアで特に職員間で徹底しているのは、羞恥心を伴うケアに関して配慮した声かけと、ケアは出来る限り同性介助を基本としている。申し送りのミーティングでは利用者が特定されないようにプライバシー保護に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強要しないように職員が気を付けてサービス提供に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、部屋で過ごされたい場合はたまに様子を見るような形で過ごしていただけるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今後は、外出等の支援を少しずつ増やし、おしゃれやその人らしい身だしなみにも意識して支援を行っていく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、ご利用者様と一緒に食事の準備や片づけを行っている。また食事を職員も一緒にする事で楽しい食事環境の配慮も行っている。	広い台所で食事の用意や片付けをしていると、利用者が手伝いに来ることがあり一緒に行っている。また職員も利用者の隣で同じものを味わうことでコミュニケーションも広がり、楽しく食事出来るように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状況に応じた、食事の提供に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。本人の状態に合わせて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけを通じて、できる限り排泄の失敗等がないように支援しています。	一日の排泄チェック表で排泄パターンを把握し、使用する紙パンツの種類やサイズを一覧にしてスムーズに排泄介助出来る支援をしている。日々の生活では運動機能が衰えないよう活動性の高い暮らしをすることで、トイレでの排泄を継続している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護との相談も含めて、スムーズに排泄ができるように対応を心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者に対して無理に入浴をするのではなく声かけをして本人の意思で入浴していただけるように心がけています。	週に2回の入浴であるが湯温や入浴時間等、体調に配慮しながら利用者の要望を聞いている。その都度お湯の入れ替えをしているため毎回一番風呂であり喜ばれている。また菖蒲を入れる等の季節湯や、入浴中の職員との会話も利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時によっては日中に昼寝していただくたり体調に合わせた生活を行っていただいたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲用している薬に対する知識習得に努めながら、状況に応じて医師に確認をとりながら適切な服薬に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日を楽しく過ごしていただけるように配慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時には、家族と外出・外泊を行ったり職員がついて散歩したりといったことはしています。	地域での行事や町内会の運動会に参加したり、家族の協力で外泊、外出している利用者もいる。日常的には隣のデイサービスに出かけたり、田んぼに囲まれた通学路を散歩している。事業所の玄関前は見晴らしも良く、椅子に腰かけての日光浴は利用者にとって気分転換となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人としての少額のお金の管理は家族同意の上で行っていますが、利用者が自分の意志で利用したりするようなケースは現時点で行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族の間での個室内での電話や手紙を受け取ったりはしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は衛生的に保ち、つまづくような物などは置かないように配慮しています。季節やイベントごとに飾りつけを行い季節感を感じていただけるようにしています。	利用者が集まるリビングは天井が高く、室内は高齢者の目に優しい明るさとなっている。壁の展示物や飾りつけは季節に応じたものであり、職員の得意分野が発揮されたレイアウトである。2, 3人掛けのソファも利用者にとっては落ち着くことができる配置となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで座って過ごしたり、テーブルで皆と過ごしたりできるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が大切にしている物を持ち込んだりすることで居心地よくなるような配慮はしています。	事業所は、居室に馴染みの道具があることで利用者が落ち着くことを家族に説明し協力をお願いしている。畳の部屋には使い慣れた大きな寝台が設置されおり、事業所が用意したキャビネットの上にはいくつか写真立てが置かれる等居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやいすなどを設けて自分の力で移動したり休憩しながら何かをしたりできるようにしています。		